

自殺者0人の社会を目指して part.5

元旦に40代の男性から年賀状が届きました。「元旦 私の命を助けてくれて本当にありがたいとうございました。」男性は持病がありながらも働いていましたが、生活のために借金をし「多重債務」状態でした。自殺を考えた事もあったようですが「週刊増田好秀」を受け取った事と、5年前からのライフワーク、日中に皆さんのお宅を伺い、困り事や意見を伺う活動の際に相談いただき、弁護士や市の職員の力を借りて問題を解決できました。いろいろな活動をしていますが、これに勝る活動はありません。「市川市は30代・40代の自殺者数が多い。ならば、直接、出勤時等に相談窓口を周知するのが効果的。」と思い活動を続け、市の活動も相まって、30代・40代の年間自殺者数を減らす事ができました。しかし、10代・20代の自殺者数が増えており、毎年80人の人が自殺で亡くなっています。失わなくて良いはずの命が多く失われているのは、政治や行政が正しく機能していないからです。私自身の無能さ・うまくいかない現状を悔しく思います。苦しんでいる方をひとりでも多く減らしたい！という想いです。市川市の自殺対策の問題は2点です。①私は「毎年ばらつきなく80人が自殺している現状であれば、自殺の原因や背景に規則性がある。」という仮説を持っています。「自殺統計原票」を基に、分析をし、市川市独自の対策をたてる事が肝要です。今までのように、全国画一的な対策を行うだけでは効果が薄いです。国に対して、必要なマトリクスで情報分析を依頼する事も含めて、粘り強く訴えていきます。②市川市の自殺対策は100%「地域自殺対策緊急強化基金」を財源としてすすめています。ですが、人件費への充当は補助対象外で、それが足かせとなり有用な対策をとれていません。こちらの改善も取り組みます。自殺者の方は、死にたくて死んでいる訳ではないのです。抱えている問題が重いから、逃れたいから死んでいくのです。生きるための支援をしたいです。誰も自殺に追い詰められる事のない社会。それはきっと、自殺とは無関係と思っている私たちひとりひとりにとつても生きていて心地の良い社会であるはずです。これが私の「最も」実現したい社会です。「理想の市川市」を話し合ってください。個々人の想いが集まれば、良い社会が形成されます。今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成27年3月12日

増田好秀